

東京国立 博物館 ニュース

展示と催し物案内
第772号

2023

3・4・5

博物館でお花見を

東京国立博物館創立150年記念事業

2023年の総合文化展 国宝室の予定

特別展 東福寺／特別展 古代メキシコ——マヤ、アステカ、テオティワカン

裏表紙に
掲載してるほ！

表紙の名品

「色絵枝垂桜図皿」



2022年4月からはじまった
創立150年記念事業もいよいよ
2023年3月で終了します。
最後までお楽しみください！



創立150年記念事業イベント等紹介

月イチ！ トーハクキッズデー

3月26日(日)のイベント

イベント	場所	時間
トーハク笑楽座	平成館大講堂	11:00、13:30
紙芝居「かくや姫」	本館18室	10:30、12:00、14:00、15:30
春らんまん 桜ぬりえ	本館19室	10:00～16:30(受付終了16:00)
うるし体験ペーパークラフトプリントサービス	本館特別4室	10:00～17:00
アートスタジオ「親子で根づくり」(事前申込制)*	本館地下みどりのライオン	11:00
こどもたてものさんぽツアー～たんけんマップをもって～	本館玄関(屋外)	12:00、14:30
手遊び&散策「ユリノキからたんけん！」	本館玄関(屋外)	15:00

*申し込みは締め切りました。

キッズスペース(10:00～16:00)で
トーハクコレクションカードとファイルを
プレゼント※するほ！

※なくなり次第配布終了



月イチでの開催は、3月で終わります。
次回のキッズデーを計画中
なので楽しみにしていてね！

実施日：3月26日(日)
対象：0歳～中学生とその保護者(小・中学生だけの参加可)
入館料：一般1000円、大学生500円
※高校生以下は無料、特別展や有料イベントは別途料金が必要。
※イベントは追加、変更する場合があります。
イベントの詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

イベントの詳細は
こちらから



手遊び&散策 「ユリノキからたんけん！」



みんなで一緒に歌ったり踊ったり、
たんけんマップを持ってアンモナイ
トを見つけに行きます

150年の歴史を辿る出版物

『ミュージアムヒストリー 東京国立博物館 — 150年のあゆみ』を刊行しました

明治5年、湯島聖堂博覧会開催を機に誕生した東京国立博物館。豊富なテーマと写真で150年のあゆみ、現在の活動の舞台裏や展示施設の特色を紹介し、文化財を守り伝えることの大切さを感じつつ博物館の魅力に迫ります。本書は、本館1階ミュージアムショップ、一般書店、各種ネット書店で発売中です。



編：東京国立博物館
発行：吉川弘文館
定価：1,760円(税込)

『東京国立博物館百五十年史』編纂中！

『東京国立博物館百五十年史』(本編、資料編の2分冊)を刊行すべく、現在準備を進めています。1973年に『東京国立博物館百年史』を出版しましたが、今回は創立からの歴史を改めて検討し、新たな視野を持って全8章の構成にして刊行します。当館がこれまで果たしてきた役割を確認しつつ、最終章では「魅力ある博物館へ」と題して、これからの新しい博物館像を示す内容をご紹介する予定です。

展覧会ポスターでたどる東博の歴史

本館～平成館連絡通路 3月26日(日)まで

2022年4月5日(火)より、本館～平成館連絡通路にて、3期にわたり展覧会等のポスターをご紹介してきました。締めくくりとなる第3期は、毎年恒例の人気企画「博物館に初もうで」と「博物館でお花見を」がテーマです。新年を寿ぐ初もうでの企画と、桜に彩られた名品をご紹介する企画のポスターで、人気企画の歴史をふり返ります。



「センサーマップ」を作成しました！

「センサーマップ」とは、感覚が過敏な方でも安心してお過ごしいただけるように、光や音などの感覚情報を表したマップです。刺激の強い場所を避けたり、休憩場所を探す場合などにご活用ください。3月末より当館ウェブサイトにて掲載予定です。

創立150年記念事業総括

2022年に創立150年を迎えた当館は、同年度をアニバーサリーイヤーと位置づけ、各種の企画を実施してきました。なかでも、来し方を顧み、現在を見つめる東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」が好評を博し、会期を延長したのは記憶に新しいところです。150年後を視野に入れた特別企画「未来の博物館」や「150年後の国宝展—ワタシの宝物、ミライの宝物」も、将来に想いを馳せ

る良い契機となりました。将来を担う子どもたちに向けた「月イチ！トーハクキッズデー」での体験は、必ずや日本文化の裾野を広げてくれることでしょう。先人たちの眼差しを再認識するとともに、現在の立ち位置を問い直した今、これからの博物館に求められる使命を果たすため、私たちは皆様と共に新たな一歩を踏み出したいと思えます。

東京国立博物館 副館長 富田 淳



特集 コレクションの探求 はにわ展から50年

平成館企画展示室 4月9日(日)まで

昭和48年(1973)、特別展観「はにわ」が当館で開催されました。本特集では、その50周年を記念し、当館が所蔵する埴輪の調査研究や修理、文化財指定の歴史や美術からみた埴輪など、50年間の成果を多角的に振り返ります。

埴輪に関する調査研究では、出土古墳の特定や出土品の性格についての再評価が日々行われてきました。調査技術も進歩し、とりわけX線CT撮影や3次元計測は修理やレプリカ作成などにも活かされています。このほか美術の観点で、創刊時に『国立博物館ニュース』の挿絵を担当した、版画家の斎藤清氏が愛した埴輪もご紹介します。(河野正訓)

まさに「はにわ」展の“顔”

◎埴輪 短甲の武人

古墳時代・6世紀
埼玉県熊谷市上中条出土
50年前の「はにわ」展では、
図録の表紙を飾りました



この50年で出土地が明らかに

◎埴輪 鍬を担ぐ男子

古墳時代・6世紀
群馬県伊勢崎市 赤堀村104号墳出土
調査研究の進展により、出土古墳を
特定することができました



かつては版画のモチーフにも

◎埴輪 帽子を被る男子

古墳時代・6世紀
栃木県真岡市亀山出土
斎藤清氏が版画の題材にした埴輪です。
近年修理が完了しました

特集 未来の国宝

—東京国立博物館 書画の逸品—

本館2室 4月9日(日)まで

「平家納経(模本)」展示期間：2月28日(日)～4月9日(日)

本館2室(国宝室)は、書画の国宝をゆったりと鑑賞していただく展示室ですが、令和4年度は創立150周年を記念して、当館の研究員が選び抜きたいち押し作品を「未来の国宝」と銘打ってご紹介してきました。その最後を飾るのが「平家納経(模本)」です。

原本の「平家納経」は、平清盛(1118～81)が広島・厳島神社へ奉納した『法華経』等全33巻の経巻です。その表も裏も絢爛豪華な装飾経の模本を、大正～昭和時代に田中親美(1875～1975)が制作しました。装飾一つひとつを写すのみならず、筆を動かさず速さまで計算したような書の写しは、驚異的です。平安時代の美意識の結集を、大正～昭和時代にすべて再現した至宝の一品です。(恵美千鶴子)

※33巻のうち、信解品 第四、授記品 第六、化城喩品 第七、人記品 第九(以上、閉じた状態で展示予定)、宝塔品 第十一、提婆品 第十二、嚴王品 第二十七(以上、開いて展示予定)、平家納経経箱(模造)を展示します。

「平家納経」を代表するワンシーン

◎平家納経 嚴王品 第二十七(模本)

田中親美模
大正～昭和時代・20世紀
原本：国宝、厳島神社蔵、
平安時代・長寛2年(1164)
嚴王品 第二十七より、
平安女性2人が祈りを
捧げる有名な場面です



(部分)

表裏すみずみまで華やか

◎平家納経 提婆品 第十二(模本)

田中親美模
大正～昭和時代・20世紀
原本：国宝、厳島神社蔵、
平安時代・長寛2年(1164)
提婆品 第十二では、紙背
(裏側)に描かれた桜で
お花見ができます



紙背(部分)



閉じていても美麗

◎平家納経

信解品、授記品、化城喩品 (左から)

すべて田中親美模 大正～昭和時代・20世紀
原本：国宝、厳島神社蔵、平安時代・長寛2年(1164)
繊細な透彫りなどが施された金具の見える巻き姿も豪華です

3月27日(月)は
特別開館だほー!

博物館で お花見を



トーハクくん

3/14 (火)

4/9 (日)

桜の季節がやってきました。今年も春の恒例企画、「博物館でお花見を」を開催します。本館の各展示室では、桜をモチーフにしたさまざまな日本美術の名品を、本館北側にある庭園では約10種類の桜をご覧ください。当館ならではの特別なお花見をどうぞお楽しみください。

さまざまな桜が咲き誇る本館はお花見日和



10室

新吉原桜之景色

歌川豊国筆 江戸時代・19世紀 展示期間：3月7日(火)～4月9日(日)

吉原の大門からのびるメインストリート・仲の町に毎年植え込まれた桜が描かれています

13室

色絵 桜川文徳利

伊万里
江戸時代・17世紀
広田松繁氏寄贈
展示期間：～4月16日(日)
茶人に特に人気の高い瓢形の徳利で、川を流れる桜の花びらを意匠化しています



桜イベントで、お花見をもっと楽しもう

*すべて事前申込不要、参加無料(ただし、当日の入館料が必要)。

◆ボランティアによるガイドツアー

ボランティアによる「樹木ツアー」「たてもの散歩ツアー」「英語ガイド」は、「博物館でお花見を」の期間中、桜のトピックを加えた特別版になります。「樹木ツアー」は構内の桜や桜まつわるエピソードを、「たてもの散歩ツアー」は構内の建物の紹介に加えて、付近の桜についてもお話しします。「英語ガイド」では、建物や展示室についてのお話を中心に、お花見期間中は構内の桜についても触れる予定です。ガイドツアーの日時等、詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

*天候等により、内容は変更になることがあります。



◆春らんまん 桜ぬりえ

桜を表した当館所蔵作品のオリジナルぬりえをお楽しみいただけます。展示室にある作品の色づかいにも注目してみてください。

日時：3月24日(金)、25日(土) 11:00～15:00 (受付終了14:30)

3月26日(日) 10:00～16:30 (受付終了16:00)

会場：本館19室

*会場にて随時受付。1名につき1枚配布。なくなり次第終了。



◆東博句会「花見で一句」

「博物館でお花見を」の期間中、桜をテーマにした俳句を募集します。桜咲く庭園や、桜をモチーフにした作品をテーマに、一句詠んでみませんか? 応募方法等、詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

園散策



2023年度の総合文化展

国宝室（本館2室）の予定

① 4月11日(火)～5月7日(日)

ふげんぼまつぞう
●普賢菩薩像 →(10ページ)
平安時代・12世紀



①

② 5月9日(火)～6月4日(日)

けいいんしょうちくす
●溪陰小築図 →(10ページ)
太白金玄序・大岳周崇ら六僧賛
室町時代・応永20年(1413) 京都・金地院蔵



②

③ 6月6日(火)～7月2日(日)

ふげんぼまつぞう
●普賢菩薩像
平安時代・12世紀 鳥取・豊乗寺蔵



③

④ 7月4日(火)～7月30日(日)

ほけまきだいろくしきし
●法華経巻第六(色紙)
平安時代・12世紀 和歌山・金剛峯寺蔵



④

⑤ 8月1日(火)～8月27日(日)

えんちんかいてん えんちんかんけいもんじょ
●円珍戒牒(円珍関係文書の内)
平安時代・天長10年(833)



⑤

⑥ 8月29日(火)～10月1日(日)

ほけまきだいろくしきし
●法華経 譬喩品(久能寺経)
平安時代・12世紀 静岡・鉄舟寺蔵



⑥

⑦ 10月3日(火)～11月5日(日)

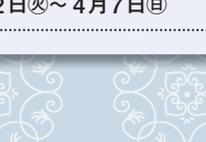
ほけまきだいろくしきし
●法華経 方便品(竹生島経)
平安時代・11世紀



⑦

⑧ 11月7日(火)～12月3日(日)

じゅうろくからかんぞうだいろくせんじや
●十六羅漢像(第六尊者)
平安時代・11世紀



⑧

⑨ 2024年1月2日(火)～1月14日(日)

しょうりんずびょうぶ
●松林図屏風
長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀

⑨

⑩ 2024年1月16日(火)～2月12日(月)・(休)

えもんだいしぞう
●慧文大師像
平安時代・11世紀 兵庫・一乗寺蔵

⑩

⑪ 2024年2月14日(水)～3月10日(日)

こんこうめいしょうせいしやうきんじやうたふま茶羅図
●金光明最勝王経金字宝塔曼茶羅図
第一幀・第四幀
平安時代・12世紀 岩手・大長壽院蔵

⑪

⑫ 2024年3月12日(火)～4月7日(日)

ぐんしょちやう まきにじゅうろく
●群書治要 巻二十六
平安時代・11世紀

⑫

※作品画像はすべて部分です。

注目の企画

「博物館でアジアの旅」 9月26日(火)～10月22日(日)

「博物館に初もうで」 2024年1月2日(火)～1月28日(日)

「博物館でお花見を」 2024年3月12日(火)～4月7日(日)



この他にも桜をモチーフにした作品をぜひ探してみてくださいね!



ユリノキちゃん

10室

小袖 白綸子地花車模様

江戸時代・18世紀
展示期間：3月7日(火)～4月23日(日)
紺と紅の鹿の子絞りと刺繍で桜・菊・牡丹など四季の花々による花車を表した、元禄期頃の女性の衣装です



(右隻)

7室

舞楽図屏風

狩野永岳筆 江戸時代・19世紀 展示期間：～4月9日(日)
京都御所の障壁画制作も行った狩野永岳による作品。春景を背景にした華やかな舞を描き出しています

8室

桜松時絵書棚

江戸時代・18世紀
展示期間：～5月7日(日)
書棚には、数多くのパリエーションが見られます。本作は、桜の花を金貝で表すなど、きらびやかな装飾がほどこされています



のんびり、のどかに 春の庭

庭園には、ソメイヨシノをはじめ、オオシマザクラ、枝垂れのエドヒガンザクラなど、約10種類もの桜が次々と開花します。池の前にある腰掛石に座って、うらかな春を感じながらゆったりと景色を楽しむのは、なんとも贅沢な時間。散策のベストシーズンであるこの季節、展示室で見る桜の作品とあわせて、庭園で咲く桜もお楽しみください。

開放時間：9:30～16:00 (5月9日(火)以降は10:00～16:00)

※天候や整備作業等により、閉鎖もしくは散策エリアを制限する場合があります。
※茶室内には入れません。

特別展「東福寺」

平成館特別展示室 3月7日(火)～5月7日(日)

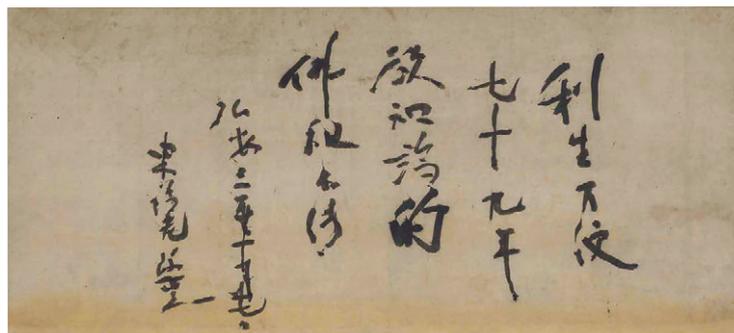
鎌倉時代前期に創建された京都東山の東福寺には、およそ800年の歴史を物語るさまざまな文化財が伝わります。なかでも書跡は、南宋禅宗界の重鎮で、開山・円爾の師である無準師範の作をはじめ、円爾とその門下・聖一派の作など、日中の名だたる禅僧による書(墨跡)の宝庫といえます。

無準が円爾の開堂祝いに贈った、伽藍を飾る扁額・告知板の手本用の書「禅院額字并牌字」は、親密な師弟関係のみならず南宋の禅宗文化の受容を示します。円爾が臨終に認めた「遺偈」は、仏道に捧げた生涯を象徴するとりわけ重要な書です。その他、聖一派の虎関師錬が遺した禅問答のような「虎 一大字」など、本展では禅宗文化を紡ぐ東福寺ゆかりの墨跡が一堂に会します。(六人部克典)



虎 一大字

虎関師錬筆 鎌倉～南北朝時代・14世紀 京都・霊源院蔵 通期展示
文字が絵か、坐した虎か怪物か、はたまた坐禅する虎関自身の肖像か。観る者の心に問いかける書です



遺偈

円爾筆 鎌倉時代・弘安3年(1280) 京都・東福寺蔵 展示期間：4月4日(火)～5月7日(日)
凛とした字姿の一点一画に、臨終における円爾の心の気高さを感じ取れます



禅院額字并牌字のうち方丈

張即之筆 中国 南宋時代・13世紀 京都・東福寺蔵 展示期間：3月7日(火)～4月9日(日)
無準師範と南宋の能書、張即之が筆者とされ、各地の禅院にこの雄渾の書風が広まりました

観覧料：一般2,100円(1,900円)、大学生1,300円(1,100円)、高校生900円(700円) ※()内は前売料金 ※前売券は3月6日(月)まで展覧会公式サイト等で販売。
展覧会公式サイト <https://tofukuji2023.jp/> ※本展は事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性がございます。 ※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。

特別展「古代メキシコ」 — マヤ、アステカ、テオティワカン —

平成館特別展示室 6月16日(金)～9月3日(日)

右の作品は「赤の女王のマスク」と呼ばれる石製のマスクです。冠と首飾りが組み合わされています。マヤ文明を代表する都市遺跡であるパレンケの13号神殿から出土しました。石棺や遺体が辰砂(朱)によって真っ赤に覆われた状態で発見されたことから、「赤の女王」と呼ばれています。マスクはまるでジグソーパズルのようになりばめられた緑色の肌と大きな瞳が特徴です。

本展覧会では、メキシコを代表する文明や都市遺跡のうち、マヤ文明、アステカ文明、テオティワカン文明の3つの文明から至宝の数々をご紹介します。現在も進められている発掘調査の成果や出土品の数々をぜひご覧ください。(井出浩正・山本亮)



赤の女王のマスク・冠・首飾り

マヤ文明、7世紀後半
パレンケ、13号神殿出土
アルベルト・ルス・ルイリエ パレンケ遺跡博物館蔵
© Secretaría de Cultura-INAH-MEX.
Foto: Michel Zabé
緑色や白色、黒色の岩石がちりばめられた威厳あるマスク



赤の女王の墓があるパレンケの13号神殿(写真右)

展覧会公式サイト <https://mexico2023.exhibit.jp/> 観覧料金、入館方法等の詳細は、今後展覧会公式サイト等でお知らせします。



特集
おや
親と子のギャラリー

尾・しっぽ

平成館企画展示室
4月25日(火)
6月4日(日)

当館は、毎年春に、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館との3館園連携企画「上野の山で動物めぐり」を行っています。16回目となる今回のテーマは「尾・しっぽ」です。皆さんは「尾・しっぽ」と聞いて、どのような形のことを思い浮かべますか？ 猫のふさふさとしたしっぽ、動物園で見るよく動くライオンのしっぽ、尾長鳥の長い尾羽、魚の尾ひれ、もしくは龍のような想像上の生き物の尾…？ 当館が所蔵するさまざまな作品のほか、動物園や科学博物館の実物標本も一緒に展示して、私たち人間にはない、動物の後方に備わるパーツの形や機能、役割などをわかりやすくご紹介します。(横山梓)

くるとしたしっぽがチャームポイント

緑釉犬

中国 後漢時代・2~3世紀
武吉道一氏寄贈
当館の人気犬。しっぽを丸めた後ろ姿もかわいいです



見た目も動きも本物そっくり



自在蛇置物

宗義作 昭和時代・20世紀
によろよろ動く蛇。さて、どこからどこまでが尾でしょうか…

しっぽのある 戦士を探して

ラーマヤーナの挿絵

マールワール派
インド 19世紀前半
鶴岡龍氏寄贈
猿(ハヌマーン)の軍隊が大活躍。仲間の見つけ方は、「しっぽ」です



特集 ニール号引き揚げ品

—ウィーン万博をめぐる日欧の工芸文化交流—

本館14室 3月21日(火・祝)~5月14日(日)

明治6年(1873)開催のウィーン万国博覧会に、日本政府は初めて公式参加しました。政府は全国各地から特産物や工芸品を集め、諸家から借りた名品を交えて展示し、現地ウィーンでは西欧各国の産業見本などを収集することで、近代日本の産業と貿易の発展をめざした一大事業でした。ところがその帰途、経由地から荷物を運んだフランスの郵船ニール号が伊豆沖で沈没してしまい、多くの品物が失われました。一方、引き揚げ品は当館に引き継がれ、この事故をきっかけに海外から改めて作品が贈られました。本特集では、ウィーン万博から150年の節目として、これらの品々をご紹介します。(遠藤楽子)

沈没事故を物語る傷跡

色絵金彩婦人図皿

ドイツ・バイエルン 19世紀
ウィーン万国博覧会事務局引継
像主はバイエルン王妃とされ、皿の表面の傷には海難の跡が見えます



日本の技と贅を示す逸品

龜甲製鳥籠

長崎 江戸時代・19世紀
ウィーン万国博覧会事務局引継
基台など一部を除き、すべて龜甲で制作されています

修理後、本特集で初お披露目

色絵蘆鶯図陶板(タイル)

ミントン社 イギリス 19世紀
ウィーン万国博覧会事務局引継
建築装飾に好まれたタイルはウィーンで収集されたとみられます



Pick up!

本館

凝縮されたレジェンドの妙技

白衣観音図

4月4日(火)～5月14日(日)

3室 禅と水墨画

ほればれするような筆さばきで描かれた観音図です。作者は、京都の東福寺を拠点に活躍した伝説の絵仏師・明兆。江戸時代までは雪舟と並び称される、画壇のトップオブトップでした。

巨幅や連作を数多く手がけた明兆ですが、本作はそれらと対極に位置する小さく繊細な作品です。ですが、そこに表された熟達したテクニックには脱帽するほかありません。観音は素早い筆致で軽妙かつ流麗に表すのに対し、光背や雲は淡くふんわりとほかし、一方で岩やつるは濃い墨で荒々しく描くなど、実に多彩な水墨技法が駆使されているのです。ぜひ特別展「東福寺」(16ペーシ)とあわせて、明兆の冴えわたる画技に酔いしれてください。(高橋真作)



白衣観音図
吉山明兆筆
健中清勇賛
室町時代・15世紀

本館

大切に受け継がれたお守り

ニンカリ(耳飾)

4月30日(日)

16室 アイヌと琉球



ニンカリ(耳飾)
北海道アイヌ(虻田) 19世紀

本作は円環状の本体に金属製の飾り玉を付し、色鮮やかな赤木綿裂が結ばれた耳飾で、ニンカリと呼ばれています。ニンカリは、首飾と同様に交易や漁場での労働の対価として、本州の和入からアイヌが手に入れたもので、ときにアイヌ自身が和入から入手した部材を組み合わせてつくることもありました。葬送などの儀礼の際に身につけたタマサイ(首飾)やシトキ(首飾)と異なっており、アイヌにとって耳飾は子どもの頃から女性だけでなく男性も日常的に身につけた装身具で、先祖から代々受け継がれたお守りの役目も果たしたものです。(品川欣也)

東洋館

殷から西周への意識変化を映すニューデザイン

百乳方鼎

3月21日(火・祝)～7月9日(日)

5室 中国の青銅器



百乳方鼎 中国
殷～西周時代・前11～前10世紀
*一説に、当時崇められた神を表した図像とされる

小ぶりながらも持ち上げるとずしりと重く、対峙するとその存在感に圧倒されます。鼎は祭祀の際に肉料理を調理したり盛り付けたりする容器で、三本足で胴部が丸い鼎のほか、本作のように四本足で胴部が四角い方鼎もつくられました。胴部には乳とよぶ突起が並んでいます。これは殷時代の方鼎によく用いられる装飾です。一方、胴部上位の饗養文*は殷時代の典型的な姿とは異なり、中央を境に龍あるいは大鳥が向き合うさまにもみえます。殷時代の青銅器の代名詞ともいえる饗養文がこのように西周時代に向けて変容するさまに、祭祀に対する人々の意識の変化や新たな時代の到来を読み取ることができまます。(市元壘)

東洋館

特徴的な衣装を彩る華麗な花文様

上着(アングアルカー) 白地花卉文様金更紗綿入

3月7日(火)～5月28日(日)

13室 アジアの染織



上着(アングアルカー)
白地花卉文様金更紗綿入
北インド・ラジャスタン・ジャイプール 18～19世紀
岩佐静子氏寄贈



北インドの貴族が着用したとされる、丸い襟元が特徴的なチュニック型の上着です。このような衣装を現地語で「アングアルカー」と呼びます。細く紡いだ木綿糸を密に織り込み、表面を滑らかにした表地には赤い花卉文様が色鮮やかに染められています。加えて、その輪郭を縁取るように金箔も施されており、華やかかつ壮麗な一着です。このように雲形に咲き誇る花文様は「ブーター」と呼ばれ、ペイズリー文様の原型になったと考えられます。北インド特有の衣装の形と、きらびやかな花文様にご注目ください。(沼沢ゆかり)

総合文化展 **Pick up!**



埴輪 太鼓を叩く男子
古墳時代・6世紀
群馬県伊勢崎市
境上武士土出土

埴輪には武人や巫女など、多様な人びとの役割が表現されています。中には琴や太鼓といった楽器を演奏している人が含まれており、儀礼における楽器演奏や、古墳に葬られた王や貴人の葬儀で行われた歌舞の風景などが表現されたと考えられています。

本作品は頭が失われており、その表情をうかがい知ることはできませんが、当時の太鼓やその演奏の様子がわかる貴重なものです。古墳時代の太鼓には本作品のような皮を紐で留め、吊り紐を肩から掛けて携えるものほかに、皮を鋏で留め、置いて使うものなどがあり、演奏の仕方もさまざまであったようです。

(山本亮)

平成館

想像力を掻き立てる造形

埴輪 太鼓を叩く男子

6月18日(日)

考古展示室

法隆寺宝物館

顕真自筆の貴重な稿本

重文 古今目録抄
(聖徳太子伝私記)上巻

3月14日(火)〜5月7日(日)

第6室 書跡・染織



●古今目録抄(聖徳太子伝私記)上巻 (部分)
顕真筆 鎌倉時代・13世紀

「古今目録抄」は、「聖徳太子伝私記」とも呼ばれ、鎌倉時代に法隆寺の住僧だった顕真が、聖徳太子伝に関する記録や法隆寺の寺誌を編纂したものです。2冊の折帖にまとめられているうち、今回は上巻をご紹介します。

反故紙を使用し、顕真による加筆修正された自筆稿本で、これを室町時代に写して整理した『古今目録抄写』(上中下三巻)も法隆寺献納宝物として伝わっています。上巻には、師匠・隆詮から伝授された聖徳太子伝の伝記が記されていて、紙背には今様の歌集など貴重な資料も収められています。

(恵美千鶴子)

黒田記念館

雑誌の表紙を飾った作品

《野辺》画稿

4月9日(日)

黒田記念室



《野辺》画稿
黒田清輝筆 明治40年(1907)

縦長の画面に肩をすくめるように収まる少女の姿は、きゃしゃで幼い印象を与えます。当時医学生であった木下柰太郎は、敬愛する黒田のアトリエを訪れてこの作品を借り、北原白秋、長田秀雄とともに創刊した文芸誌『屋上庭園』第1号(1909年)の表紙としました。黒田はこの時、大作を手掛ける時には、自分の気分に適した小さな作品をまず描くと木下に語りました。

《野辺》の油彩画(ポーラ美術館蔵)では、本作と同じ構図ながら、横長の背景にいくぶんゆったりと横たわる女性が描かれます。画稿から油彩画へと展開する中で変化していった最初の「気分」が本作には残されたのです。

(東京文化財研究所・吉田暁子)

トーハクの調査研究 19

博物館の重要な使命のひとつである「調査研究」。その一端をご紹介します。

作品公開の裏には、専門技術者によるメンテナンスが必須

保存修復室では、作品の安定的な保存と安全な展示のため、作品担当研究員と共に作品の状態の確認や記録をし、必要な場合は修理などの処置を進めています。

作品を展示する場所は、展示室の中だけではありません。当館の構内には、建物の周辺や庭園の屋外に30点ほど作品が展示されています。その素材や形体は、ブロンズ彫刻から、石燈籠、石碑、瓦などさまざまです。屋外作品は、大型で重量があるものが多く、常に自然環境の影響を受けているため、作品の劣化によって事故につながる恐れもあります。そのため、お客様の安全を第一に、周辺環境の整備を各部署と相談しながら、定期的に保存修復の専門技術者と作品を見廻り、計画的な作品のメンテナンスに取り組んでいます。

(野中昭美)



屋外展示(黒田筑前守江戸殿関邸鬼瓦)の状態調査の様子

4

茶の美術

-5/14⑩
がらんせきこうごう
伽藍石香合
伊賀 江戸時代・17世紀
緑色のたっぷりとした釉で、小品ながら伊賀焼らしい力強さをたたえています



あからくちやわん
赤染茶碗
得入作
江戸時代・宝暦12年(1762)～明和7年(1770)



3-3

禅と水墨画
鎌倉～室町

-4/2⑩
によりんかんのんず
如意輪観音図
良全筆
南北朝時代・14世紀
山本達郎氏寄贈
東福寺で活躍した良全による水墨観音図。繊細な金泥文様に注目です



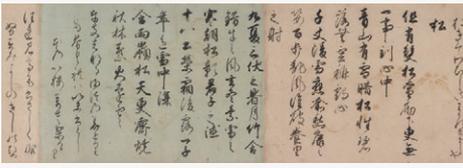
4/4⑩-5/14⑩
ひやくえかんのんず
白衣観音図(→8ページ)
吉山明兆筆、健中清勇賛
室町時代・15世紀




3-2

宮廷の美術
平安～室町

-4/2⑩
わかんろういしゅう
和漢朗詠集
(龍田切)
伝源家長筆
鎌倉時代・12～13世紀
草花などが描かれた料紙に『和漢朗詠集』が書写されています



4/4⑩-5/14⑩
つなえき
網絵巻
室町時代・16世紀
(部分)



3-1

仏教の美術
平安～室町

-4/2⑩
ふげんぼまつぞう
普賢菩薩像
鎌倉時代・13世紀
菩薩の衣や象の飾りの華やかな描写が見どころです



4/4⑩-5/14⑩
じゅうろくろ かんぞう だいじゅうそんじゃ
十六羅漢像(第十尊者)
南北朝時代・14世紀



1-1

日本美術のあけぼの
縄文・弥生・古墳

-7/2⑩
こもちそうしよくつぎまき(つぎつぼ)
子持装飾付脚付壺
古墳時代・6世紀
岡山県瀬戸内市牛窓町槌ヶ谷出土



かえんがたどき
火焰型土器
縄文時代(中期)・前3000～前2000年
伝新潟県長岡市馬高出土
燃え盛る焰のように発達した飾りが、名前の由来になりました



1-2

仏教の興隆
飛鳥・奈良

-4/2⑩
ずい か そうらんほつ かきょう
瑞花双鸞八花鏡 奈良時代・8世紀
大分県杵築市山香町向野津波戸山頂出土
中国・唐の鏡を手本に我が国で作られたいわゆる唐式鏡の一例です



4/4⑩-
こうふくじ ちんだんく あおがどりいしだま
興福寺鎮壇具 青緑石玉
奈良時代・8世紀 奈良市興福寺中金堂須弥壇下出土



2

国宝室

4/11⑩-5/7⑩
ふげんぼまつぞう
普賢菩薩像
平安時代・12世紀
修理により、制作当初の優美さをより感じられるようになった平安仏画の最高傑作



5/9⑩-6/4⑩
けいいんしょうちくず
溪陰小築図 太白真玄序・大岳周崇ら六僧賛
室町時代・応永20年(1413) 京都・金地院蔵



-4/9日
舞楽図屏風 (→5ページ)
 狩野永岳筆 江戸時代・19世紀
 京都御所の障壁画制作も行った狩野永岳が、華やかな舞の様子を描いた屏風です



(右隻)

4/11日-5/28日
花鳥図屏風
 海北友雪筆 江戸時代・17世紀
 第3代將軍徳川家光にも取り立てられた友雪が描く貴重な花鳥画です



7
 屏風と襖絵
 安土桃山〜江戸

-5/7日
白糸威二枚胴具足
 江戸時代・17世紀 徳川義寛氏寄贈
 尾張徳川家初代・徳川義直所用の甲冑で、独特な形の兜が見どころです



-5/14日
朱漆打刀 (◎刀 伝長船元重の拵)
 安土桃山〜江戸時代・16〜17世紀



5.6
 武士の装い
 平安〜江戸

-5/7日
色絵桜樹圓皿
 鍋島
 江戸時代・18世紀



かけじくぞうかんさやがたいんろう
掛軸象嵌鞘形印籠
 江戸時代・19世紀
 クインシー・A.シヨー氏寄贈
 象嵌技法を用いた銅製印籠。意匠中の掛軸には楼閣山水も描かれています



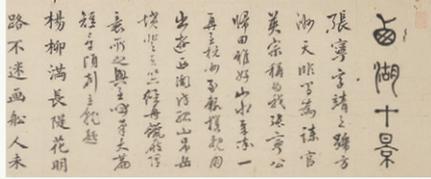
8-1
 暮らしの調度
 安土桃山・江戸

-4/9日
桜花図
 広瀬花隠筆 江戸時代・19世紀
 桜の品種が増えた江戸時代、もっぱら桜花を描いたことで知られる花隠の佳品です



(右幅)

4/11日-5/28日
西湖十景
 細井広沢筆
 江戸時代・享保5年(1720)



(部分)

8-2
 書画の展開
 安土桃山〜江戸



本館展示
 日本美術の

3/7日-4/23日
振袖 紅縮緬地 桜流水模様
 江戸時代・19世紀
 坂東三津江所用
 高木キヨウ氏寄贈



4/25日-6/18日
迦陵頻伽 紅紗地 窠尾長鳥模様
 江戸時代・19世紀
 鳥の羽をつけて童子が舞うのに用いる、愛らしい子ども用の衣装です



浮世絵
3/7日-4/9日
新吉原櫻之景色
 (→4ページ)
 歌川豊国筆
 江戸時代・19世紀



(部分)

4/11日-5/7日
富嶽三十六景・御殿川岸より両国橋夕陽見
 葛飾北斎筆 江戸時代・19世紀
 夕暮れの時時間帯を、当時最先端の青い顔料「ベロ藍」で表現した作品です



衣装
3/7日-4/23日
小袖 淡黄縮緬地 縞島取梅枝模様
 江戸時代・18世紀



4/25日-6/18日
打掛 紅輪子地 御簾薬玉桜模様
 江戸時代・18世紀
 端午の節句に飾った薬玉の花飾りをデザインしたみやびやかな打掛です



10
 浮世絵と衣装
 江戸

15

歴史の記録

4/25(火)-6/18(日)

江戸城本丸等障壁画下絵
本丸大広間二之間

狩野晴川院養信筆 江戸時代・19世紀



(部分)

-4/23(日)

◎日本沿海輿地図(中図)

中国・四国

伊能忠敬作
江戸時代・19世紀

現存する伊能忠敬作の日本全図の中で、最も正本に近いとされる作品です



14

特集

3/21(火)・祝-5/14(日)

特集「ニール号引き揚げ品—ウィーン万博をめぐる日欧の工芸文化交流—」(→7ページ)

色絵金彩透彫文杯

イギリス ロイヤル・ウースター社
19世紀 ロンドウス社寄贈



色絵金彩婦人獅子図木瓜形盆

イギリス 19世紀
ウィーン万国博覧会事務局引継



15

14

13-3

陶磁

-4/16(日)

色絵枝垂桜図皿 (→16ページ)

鍋島 江戸時代・18世紀
米田寅氏・千恵子氏寄贈



4/18(火)-7/9(日)

織部獅子鈕香炉

美濃 江戸時代・慶長17年(1612)
明時代の青磁獅子香炉を模して作られ、制作年が記された貴重な一作です

13-3

13-2

13-2

刀剣

4/11(火)-7/2(日)

◎太刀(号 今荒波) 備前一文字 鎌倉時代・13世紀

「一」の銘をもつ備前一文字派の名品。荒波のような派手な刃文に注目



4/18(火)-7/9(日)

◎巴透鐺

信家
安土桃山時代・16世紀

11

彫刻



-3/19(日)

特別企画「大安寺の仏像」

(→前号7ページ)

◎多聞天立像
(四天王立像のうち)

奈良時代・8世紀
奈良・大安寺蔵
画像提供: 奈良国立博物館
撮影: 西川夏永



3/21(火)・祝-6/11(日)

不動明王立像

平安時代・11世紀 岡野哲策氏寄贈
仏像の素材としては珍しい桜の木でつくられています

12

漆工

-4/16(日)

松巴螺鈿鞍 室町時代・15世紀

薄貝の輝きを全面に満たす螺鈿鞍。
明の螺鈿の影響も窺えます



4/25(火)-7/9(日)

獅子牡丹蒔絵鏡箱

南北朝時代・14世紀

13-1

金工

-5/21(日)

金銅尾長鳥文華鬘 鎌倉時代・13世紀

*3月21日(火・祝)、22日(水)は展示環境整備のため、本作品はご覧いただけません。



はなくるまおきもの
花車置物 江戸時代・19世紀

*3月14日(火)は展示環境整備のため、本作品をご覧いただけません。すべて金属でつくられています。薄い板で構成された牡丹が見事です

みどりのライオン

※掲載されている催し物につきましては、今後、予告なく変更・中止する場合がございます。当館ウェブサイト等でご確認ください。また、動画配信については、公開済、公開予定のコンテンツを掲載しています。



みどりのライオン
オンライン

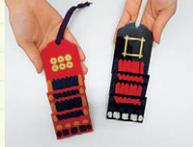
事前申込制 対面実施

ファミリーワークショップ「おどし体験！」

日本のよりの美しさ、動きやすさの秘密である「小札」という小さなパーツを紐でつなぐ「おどし」の技で、飾りをつくってみましょう。

日時：4月29日(土・祝)・30日(日)
①10:00~12:30 ②14:30~17:00

対象：小学4年生~中学生
定員：各回10名 参加費：2000円



「小札」にあいた穴に紐を通して、かっこいい飾りをつくります

事前申込制 対面実施

ファミリーワークショップ「からだが動くエビをつくってみよう！」

いきものの形をしていて、からだの節々が動く「自在置物」をご存知ですか？ 家族で協力して、エビの自在置物をつくってみましょう。

日時：5月13日(土)・14日(日) 13:00~17:00
対象：小学生とご家族
定員：各日6組 参加費：無料



ワークショップの様子

*ワークショップは当館ウェブサイトからお申込みください。
*お問合せ：TEL:03-3822-1111(代)教育普及室

オンライン ギャラリートーク

「創立150年記念特集 根付 郷コレクション」

講師：福島 修(特別展室研究員)
こうせいの すけ
郷誠之助氏(1865~1942)が蒐集した江戸~明治時代の根付274件を一挙に公開した本特集より、その魅力を解説します。



「博物館に初もうで 兎にも角にもうさぎ年」

講師：清水 健(工芸室主任研究員)
卯年の今年は、うさぎたちが兎にも角にも展示室に大集結。うさぎの造形の特徴と魅力、人とうさぎとの関わりについて、日本を中心にお話しします。



「創立150年記念特集 王羲之と蘭亭序」

講師：六人部 克典(東洋室研究員)
中国と日本の文人たちが憧れた王羲之の書。最高傑作「蘭亭序」や制作背景となった雅集などについて、本特集の展示作品からご紹介いたします。



蘭亭図巻(万暦本) 原跡：王羲之他筆
中国 明時代・万暦20年(1592)
高島菊次郎氏寄贈
東洋館8室にて3月12日(日)まで展示

ご自宅等でお楽しみいただけるよう
YouTubeによる動画を配信しています。



東京国立博物館
YouTubeチャンネル

※月例講演会は当館大講堂にて実施しております。
詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。(事前申込制)

3/14(火)-4/30(日)

葡萄栗鼠螺鈿小箱

沖繩本島 第二尚氏時代・18世紀



5/9(火)-7/30(日)

トンコリ(五弦琴)

樺太アイヌ 19世紀 徳川頼貞氏寄贈

竖琴の一種で、抱きかかえるように立てて持ち、両手の指で演奏しました



16

アイヌと琉球



18

近代の美術

3/21(火)・(祝)-6/11(日)

竹取翁

米原雲海作 明治43年(1910)



4/25(火)-6/11(日)

風神雷神

今村紫紅筆 明治44年(1911)

お馴染みの風神雷神図ではありながら、紫紅の独創性がにじみ出た作品

東京・春・音楽祭2023

「東京・春・音楽祭」は、桜咲く上野を舞台に東京の春の訪れを音楽で祝う、国内最大級のクラシック音楽の祭典です。19回目を迎える音楽祭は、当館平成館ラウンジと法隆寺宝物館エントランスホールでミュージアム・コンサートを開催します。

- ①東博でバッハ vol.59 周防亮介(ヴァイオリン)
3月22日(水)
- ②東博でバッハ vol.60 周防亮介(ヴァイオリン)
3月23日(木)
- ③東博でバッハ vol.61 徳永真一郎(クラシックギター)
3月29日(水)
- ④東博でバッハ vol.62 川口成彦(フォルテピアノ)
4月3日(月)
- ⑤東博でバッハ vol.63 上村文乃(チェロ)
4月4日(火)
- ⑥東博でバッハ vol.64 神田寛明(フルート) & 小倉貴久子(チェンバロ)
4月12日(水)

会場：①②③⑤法隆寺宝物館エントランスホール
④⑥平成館ラウンジ

時間：19:00開演(18:30開場)

料金：各公演4,000円

主催：東京・春・音楽祭(TEL：03-5205-6401)

チケットをお求めの際は東京・春・音楽祭チケットサービス
(<https://www.tokyo-harusai.com/>)をご確認ください。

手ぬぐいをプレゼント

大好評の伊藤若冲自画自刻の「玄圃げんぼよう瑤か華」を使用したポスターデザインの手ぬぐいを10名様にプレゼントします。締切は6月9日(金)必着。

*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で1番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

*手ぬぐいは1種類のみです。販売はしていません。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館 広報室「ニュース3・4・5月号」プレゼント係



ガイドマップのデザインを改訂しました

当館ガイドマップのデザインを約10年ぶりに改訂しました。情報を整理し、出来る限り文字を大きくしたり、ご覧いただきやすい判型にするなどの工夫をしました。4月より、7言語8種類(日本語、英語、中国語<簡体字、繁体字>、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語)のPDFデータを当館ウェブサイトよりダウンロードしていただけます。また、4言語(日本語・英語・中国語<簡体字>・韓国語)については、正門プラザや本館エントランスにて印刷物を配架します。



※完成のイメージです



閉室情報

展示環境整備のため、展示室の一部を以下の通り閉室します。

本館 12室：4月18日(火)～4月23日(日)

本館 特別1室・特別2室：～5月28日(日)

東洋館外壁(西側) 改修工事

安全性の向上を目的に、2022年11月より、東洋館外壁の主に西側部分においてモルタル剥落防止、タイル剥落防止工事を行いました。



タイル剥落防止工事は、剥落のおそれのあるタイル1枚1枚

に穴をあけ、アンカーピンと呼ばれるステンレス製の丸い棒と固定用の樹脂を使用して建物の構造体にタイルを固定するものです。工事中にお越しになった方々には騒音等ご迷惑をおかけしましたが、おかげさまで工事は無事完了し、この先数十年、東洋館を安心してご利用いただけるようになりました。

TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『雪舟 — 山水画を巡る —』

3月8日(水)～6月11日(日)

力強い墨の線と立体的な構図で、見る者の視線を奥へ奥へと導く雪舟の山水画。本VR作品では、筆運びの再現により雪舟の息遣いを感じ、掛軸の中に入り込み山水景観を巡る旅をしているような体験をお楽しみいただけます。



料金：一般・大学生・高校生：600円、

小学生・中学生：300円、未就学児・障がい者とその介護者各1名は無料(1作品/1回あたり)、別途入館料が必要です。

開演時間までにシアター前券売機にてチケットをお買い求めください(当日券のみ)。

※所要時間 約35分

※演目・スケジュール・定員は、都合により変更もしくは休演となる場合がございます。
※詳細、最新の情報はウェブサイト(<https://www.toppa-vr.jp/mt/>)をご覧ください。

3・4・5月の休館日情報

休館日	3月	4月	5月
	6日、13日、20日	3日、10日、17日、24日	8日、15日、22日、29日

※3月27日(月)、5月1日(月)は特別開館します。

※開館時間、休館日等の最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

◆東京国立博物館利用案内

総合文化展観覧料金 一般1,000円、大学生500円

●事前予約は不要です。

※混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性があります。

※特別展の入館方法は展覧会ごとに異なります。

詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。

●障がい者とその介護者各1名は無料。

満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。

●国際博物館の日(5月18日<木>)、敬老の日(9月18日<月・祝>)、文化の日(11月3日<金・祝>)は、総合文化展のみ観覧無料。

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジンで！

東京国立博物館ウェブサイト
<https://www.tnm.jp/>



◆東京国立博物館賛助会員(寄附会員制度)募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。寄附金控除の対象になります。

【主な特典】特別展内覧会へのご招待 など

【年会費】〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上、特別会員 100万円(1口)、維持会員 20万円
〈個人〉プラチナ会員 100万円以上、ゴールド会員 20万円、シルバー会員 5万円

【申込方法】会員受付窓口、ウェブサイト(クレジットカード決済)、銀行振込
詳細は担当までお問い合わせください。

◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。

友の会

発行から1年間有効 年会費:7,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショップ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

*本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

*2022年10月18日(火)～2023年12月30日(土)の間に期限切れとなる東京国立博物館の特別展観覧券(会員制度特典)は、2023年12月31日(日)までご利用いただけます。

国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効 年会費:一般2,500円、学生1,200円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能です。

東京国立博物館ニュース定期購読

年会費:1,000円(1年分)

【特典】東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。*次号(6-8月号)より送付をご希望の場合、締切は2023年5月10日(水)です。

○申込方法

1. 会員受付窓口

当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます(現金またはクレジットカード、電子マネー)。

2. ウェブサイト

専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替(振替用紙を送付))。

3. 郵便振替

●振替用紙に①種別(友の会、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生<4館共通のみ>)、③メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名(ふりがな)、⑦電話番号を通信欄・ご依頼人欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。

加入者名:東京国立博物館会員制度

口座番号:00140-3-791791

●友の会または国立博物館メンバーズパス(4館共通)にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。

●振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。

●振替手数料はお客様負担となります。

●ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

*一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

*お申込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該目的のみに使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

○お問合せ

電話 03-3822-1111(代) / FAX 03-3821-9680

総務課渉外開発担当

*月～金曜日の9:30～17:00(土日・祝休日は除く)

表紙の名品

2023年3月・4月・5月号

いろえしだれざくらずさら 色絵枝垂桜図皿

1月17日(火)～4月16日(日)

本館13室

夜風に揺れる枝垂桜。鍋島の名品、ここに満開

枝垂桜を描いた鍋島焼のお皿です。幹と、垂れ下がる枝を染付で、そこに咲いたたくさんの桜の花と蕾を赤い上絵具で表しています。背景は、器の上半分にあわせた濃染めで、青く塗り込んでおり、夜の様子であることがうかがえます。色数はわずかですが、青の濃淡を取り入れながら、春の夜風に静かに揺れる満開の桜をとらえています。

本作のような桜の図様は、鍋島焼において主要なモチーフのひとつです。1本の幹に満開の様子を描いたもの、花籠、花筏、白抜きを活かした唐花文の組み合わせなど、多彩な桜の意匠が伝わります。鍋島焼は、17世紀半ばから肥前佐賀藩鍋島家の藩窯として焼かれたやきものです。江戸幕府は、三代将軍家光のとき、諸大名に参勤交代と合わせて、各藩の特産品を献上する「例年献上(月次献上)」を



色絵枝垂桜図皿 鍋島 江戸時代・18世紀 米田實氏・千恵子氏寄贈

とを目論みます。高い技術力をもった有田の陶工を集め、険しい山間に囲まれた伊万里市の大川内山に窯を築き、技術や意匠が外部に漏れないようにするという、徹底した管理下で鍋島焼は完成しました。中国産にひけをとらない高級磁器が追究されていくなかで、伝統的な花である桜は日本ならではのふさわしい題材であったでしょう。器は径が一尺、七寸、五寸、三寸を

義務づける制度をつくります。鍋島家では制度確立以前から、佐賀に近い長崎に入ってくる中国景徳鎮産を含む優れた染付や色絵磁器を將軍家への献上品にあてていましたが、1644年に中国で明から清への王朝交代にともなう内乱が起ると、中国からの輸出品は途絶えてしまいます。そこで鍋島家は、1610年代に肥前有田で始まった国産の磁器を、中国産に匹敵する献上品にふさわしい高級磁器とするこ

基本とする規格が定められ、複数枚からなる組皿で献上されました。組皿の描いの図様は、仲だち紙と呼ばれる転写紙を用いて正確に写されます。本作は10客がまとまって伝わる大変貴重な作例で、松本藩主戸田家に伝来しました。令和2年度にご寄贈を受け、お花見の季節には今回が初めての展示となります。

(横山梓)

*太い筆を使って、呉須(藍色の顔料)を塗りこめる技法のこと



10客揃うと、図様がいかに正確に写されているかがよくわかります
※展示室では、展示空間の都合により、このうち5客を展示しています。